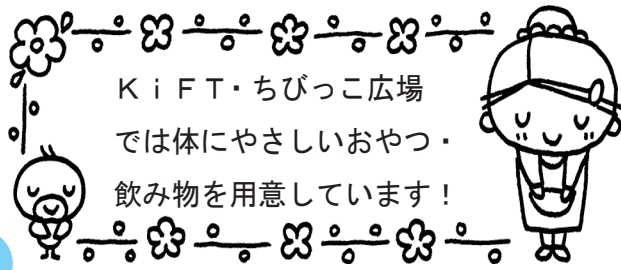


応援します。なかよし親子

Come Come

K i F T・ちびっこ広場  
では体にやさしいおやつ・  
飲み物を用意しています!



2024年6月号

# 子どもの「泣く」に寄り添おう

「泣く」という表現には、子どものさまざまな感情が込められています。マイナスに考えたり受け流したりするのではなく、子どもの心に向き合うチャンスと捉えて対応していきましょう。



## 子どもが「泣く」意味とは?

### 子どもは「泣く」ことで自己表現や自立心を身につける。

子どもは「泣く」ことで自分の内面の感情を周囲に伝えます。つまり、自己表現やコミュニケーションの基礎になるのが「泣く」という行動です。また、泣いて感情を発散し、その後に気持ちを立て直していく経験から、自己コントロール力や自立心、たくましさが増えていきます。

## 成長するほど子どもは複雑な感情で「泣く」

0歳～1歳

### 生理的な不快感で泣く

乳児期は、お腹がすいた、眠い、気分が悪い慣れない人や物が怖いなど“不快”を訴えて泣くことが大半です。激しく泣いて不快を取り除いてほしいと周囲に訴えるため、「怒りの泣き」とも言われます。



2歳～3歳前半

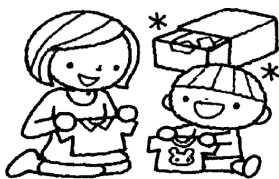
### 言葉が未熟で伝わらず泣く

2歳頃からは、自己主張がはっきりしてくる反面、言葉がまだ未熟なために思いを伝えられず泣くが増えます。また、感情表現も豊かになりますが、ワーッと短時間泣いて、その後はケロリとしていることも。

3歳後半～5歳後半

### 内面の感情表現として泣く

3歳後半～5歳になると、言葉が追いつかずに泣くことは減っていきます。反面、思考力が発達し、豊かになった感情があふれて泣くようになります。泣き方も、声を上げて泣くだけでなく、ハラハラと涙を落とす、目に涙をためて耐えているなど、様々な様子が見られます。子どもの表情や視線などから複雑な感情を読み取り、対応することが大切です。



## 子どもの思いを理解し、成長に繋げていく

子どもの気持ちを受け止め、共感を示していくことが、子どもにとって「感情を収めて乗り越えていく」力になります。子どもがさまざまな感情を体験しながらも、それを成長に繋げていけるよう、子どもの心に寄り添い、支援していきましょう。



## ゆうゆうK i F Tのお知らせ

ゆうゆう館のお部屋で、親子クッキングをしたり、お子さんを保育士に預けて、ママたちのための趣味の講座を開いたり

します(\*\_\*)内容は下記の通りです。予約制になりますので、詳しくはスタッフまでお声をおかけ下さい。

お友達をお誘いの上、ご参加下さい。お待ちしております(\*\_\*)

6月の解放日… 21日(金) 10:00~11:30

手作りおやつ教室

7月の解放日… 12日(金) 10:00~11:30

3色パステルアート教室

